

福島「新わらじまつり」レポート 2019年8月2~3日

JAMJAM ラジオで何度も特集してお送りした「わらじまつり」の再生プロジェクト。今まで行われていた祭りを新しく改革し「新わらじまつり」として行おうという企画。どんな事になるのか実際に見てみたかった。そこで！行って来ました！福島へ！！京都も暑いですが福島も暑かったあ〜。2014年のプロジェクト FUKUSHIMA の納涼盆踊り以来なので5年ぶりの福島。今回も古関 裕而さんに笑顔で迎えていただきました。駅前の提灯や観光案内所の提灯に吊るされた「わらじ」が祭りのムードを盛上げてました。

福島に到着！



第50回福島わらじまつり 初日8月2日はわらじ競争からスタートし、わらじおどり、
ダンシングソーダナイトが開催、その間に大わらじパレードや健脚わらじパレードが行われる。
既におおわらじが会場に鎮座されていました。

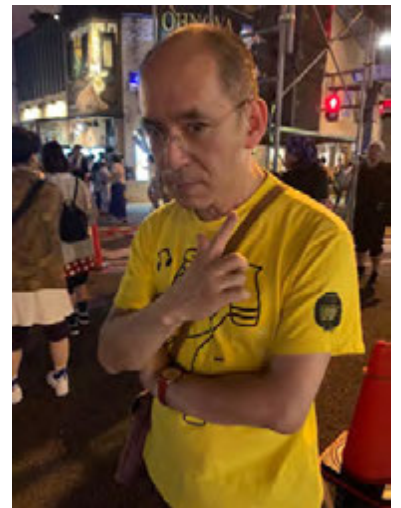
紐がついているのはこれを引っ張って競争する「わらじ競争」用のもの。



式への出番待ちのあいだ会場近くの某所楽屋で収録。細馬さんが後からやって来た！



この晩は新生わらじまつりへの引継式があるという事で舞台袖の大友さん。私も細馬さんもイメージしていた式は年末の今年の干支から来年の干支への引継式のような事を思っていたのでちょっと想定外。にやにやにや！大友さん翌日の新わらじ祭りに向けての後ろ姿が緋背だ。



8月3日 土曜日！いよいよ新わらじまつりの日がやって来た。

快晴過ぎる快晴。蒸し暑すぎる日中。まちなかへ行くと大わらじが神々しく奉ってあった。

どんなことになるのか、どんなことが起きるのかワクワクしてくる。渋い山車はお囃子の連中がここへ乗って演奏。かっこいいよなあ！



さんかく広場近くのパーキングで午後2時過ぎから 今回の太鼓方の指揮官、数々のバンドのドラマーである音楽家 芳垣安洋さん率いる太鼓チームが最終のリハをすると聞いて行ってみる。キツイ陽射の中を囃し方、笛の方、幅広い年齢層で男女色々な演奏者たちが集まってくる。大人が小さい子たちに熱心に教え伝える姿が美しかった。細馬さんは YouTube で自主練をしてきたと言いながら音に合わせて踊りの練習を始める。(細馬さん最終的には法螺貝のような音がする大きな竹の鳴物を吹くことに) 暑さとは違う皆の熱さが伝わって来た。





まつりの本番を前に 駅前通り辺りを 大友良英スペシャルビッグバンドの面々が
まちなかを演奏しながらパレード。まつりの露払いっぽい。翌日8月4
日はまちなか広場でフェスティバル FUKUSHIMA。既に櫓も組まれてい
た。

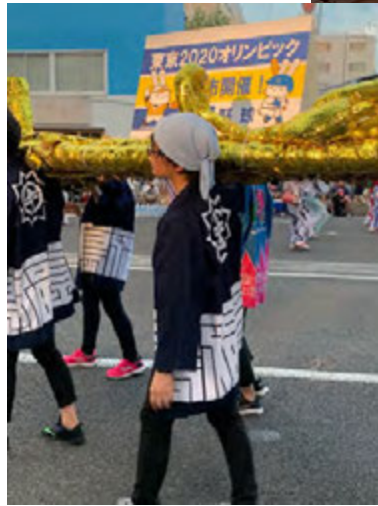


午後5時 新わらじまつりは 「わらじまつり物語」の朗読からスタートします。
朗読が終わると 法螺貝のような音が聴こえて来てまつりが始まります。
道路13号線まちなか広場の角(南から) 「わらのわ」を持った桃色衣装の女子たちが
飛び跳ねるかのように踊りながら北上してきます。北からは渋く美しい紫色の長いムカデを模
した円筒形の吹き流しを持った男性たちが練りながら南下してきます。往復しながら中央の所
で 踊りチームが停滞した形式で踊り奉納します。衣装も渋く、「わらのわ」を持つ姿もとても
可愛い。来年は「わらのわ」の形を焼き印した饅頭とか売り出してみてもはどうだろう。
アクセサリーとしても持って帰りたい気もするなあ。1年 傍に置いておいて翌年 また訪れ
て信夫山にお返しするというのはどうだろう。

いよいよ始まる！まずは「わらじまつり物語」の朗読が会場にながれます。
法螺貝のような竹笛の音、太鼓、お囃子と生演奏でわらじ音頭が始まり、
踊り子たちが踊り始め北の信夫山方面から ムカデがやって来ます！



オープニングが終わると参加団体の
グループが踊り始め
本格的にまつりがスタートです！





新わらじおどりは、インターバルを挟みながら全部で3クール+1回ほど13号線の駅前通りから万世町通りをインターバルの間にはステージイベントとして、踊りの振り付けを担当された伊藤千枝子さんのインタビューや わらじまつり物語の絵を担当された 飯野和好さんのインタビューなどがありました。そしてまつりは観ている人も踊りの輪に入り、お囃子の中にスペシャルビッグバンドや個々楽器を持って来た人が混じってとてもカオスな世界に。





クライマックスは北ステージ近くに設置された白布幕に大わらじが掲げ上げられてフィニッシュを迎えました。物語の朗読から始まり、生の演奏でのお囃子、最後は皆が輪に入って踊る。「わっしょい」が聞こえてきたり、お囃子の太鼓と篠笛と共にサックスの音が聞こえてきたり。面白かったあ～！



翌日、羽黒神社でわらじを奉納し、このまつりは終わりとなります。神社へはいけませんでした。今回とても印象に残っているのは若い青年や少女がとても多かったこと、しかも、はにかみながらも笑顔笑顔。「なんじゃこれ？」とか「え、これでも

いいの？ね！」と思った若人が沢山いたはず。それはとても成功だと思う。実際、自分なりに振付けをしてる人や、衣装も自分たちなりにデザインして参加しているチームもあって華やかだった。来年、再来年とどんなふうにもつりが熟していくのか楽しみしかない。



2019年8月2日(金)3日(土)
福島市 新わらじまつり

